

ニホンザルの分布変遷について ー主に、奈良時代以降に焦点をあててー

三戸幸久
日本モンキーセンター

はじめに

ニホンザルの分布の変遷に関して、奈良時代以降の生息情報をもとに、ニホンザルの分布変遷のアウトラインを調査した（表1）。

奈良時代のニホンザルに関する情報の主なものは、和銅6年（713）に朝廷より発令された風土記編纂のうち出雲国風土記、常陸国風土記にある。出雲の国からの報告では、どの山、どの野にもサルがいたと記されている。「野」の解釈が微妙であるが、人が定住占拠していない草地や野原までふくめてよいであろう。これを前提にすれば、現在の島根県東半分に当たる出雲地域には当時、ほぼ全域にニホンザルが生息していたと考えてよいであろう。そしてこれを全国に敷衍すれば、当時、ニホンザルは本州、四国、九州のどの山、野にニホンザルが分布していたと考えてよいのではなかろうか。

允恭天皇の14年（4世紀）天皇が淡路島に猟に出かけ、シカ、サル、イノシシを狩っている。農作物の被害は発生していたが、それは主に夜行性のイノシシとシカによるものであり、昼行性のサルは、騒がしいことが多こともあり、見つかりやすく、農作物は比較的守りやすかったのではなかろうか。サルたちは、追われれば逃げ、狩られれば食われて、しだいにヒトの生活圏より排除されつつあったと思われる。

平安～鎌倉～室町時代

平安時代～室町時代における地域を特定できる生息情報は見あたっていない。ただ、延暦21年（802）7月にオオカミが京・朱雀道を走ったという記録や斉衡2年（855）閏4月には東宮にオオカミが現れたり、また、今昔物語ではニホンザルの群れとおぼしき集団が邸宅内を徘徊する場面も見られる。大和地方など大都市でも、まだまだ、野生動物の都市空間への入り込みが見られていたことをうかがわせ、現代における都市でもときどき一単位単位のニホンザルが姿を現すが、これに似た様相もよく見られたのではなかろうか。その背景には、大和地方など都市周辺の森が遷都や社寺の建設などで消費され、野生動物のすみかが急速に失われるという事態が起こっていたものと思われる。都市周辺にとりのこされた野生動物が、市街地に迷い込んだり、農作物や人の食べ残しなどをあさりながら周辺に居着くこともあったと思われる。

一方、「猿牽き」や「厩ザル」（梁塵秘抄）などの記録から、ニホンザルの個体が生け捕られ、身近に飼われることによって、野生とは異なった特徴が人々の中で広まり、イメージ化されていったと思われる。例えば、藤袋草子（猿婿話の原型）では、ニホンザルは群れ生活者として理解されているが、鳥獣戯画やさるかに合戦、桃太郎話などはじょじょに一個体の活躍へと象徴化され、戯化されていったものと思われる。人の都市型生活の発展もすすみ、野生ニホンザルと

の接触は少なくなり、ニホンザルの群れ生活者としての姿は、人の文化的意識の中では、急速になくなっていったものと思われる。

江戸時代

江戸時代においては、享保元文の諸国産物帳の編纂、各地農業殖産の振興にともなう諸産物農業の記録（農書類）や新風土記が残され、ここでのニホンザルの記録が残っている。また、菅江真澄（1984）などの旅行家により記録も残るようになり、そこでのニホンザルの生息情報も少なくない。

愛知・尾張藩を例に産物帳の記録を見ると、生息は春日井郡と丹羽郡に限定されてきている。この地域は尾張地域では東部の丘陵地帯で、知多半島での生息はこのころにはすでに無くなっており、この丘陵地に限定されていたと考えられる。

江戸期後半にはいると、燃料、建設資材、焼き物、製塩、製鉄などなどあらゆる生活・産業の分野で森林木材の消費が進み、都市周辺では荒廃地やはげ山が出現していたと考えられる。洪水があいつぎ、多くの藩では伐採制限や植林、森林保護などが打ち出されている。こうしたこととあいまって、森林動物であるニホンザルの生息域は狭められ、それに伴う猿害など軋轢の結果、駆除圧も高まっていた。特に、飢饉が頻発していた東北地方では、食料としてまた薬種として多く狩られていたと思われる。

明治から昭和へ

明治に入って狩猟が一気に拡大した。その背景には、藩政時代のさまざまな規制が取り除かれたことがある。その一つは、狩猟の自由化である。16歳になればだれでも、山間部であればいつでもどこでも自由に狩猟することが許されるようになった。その上に旧藩主の猟場の解放。そしてもう一つは、それまでの火縄銃の解禁に重ねて、洋式鉄砲の輸入拡大、村田銃の発明など近代銃の民間への急速な普及があった。

「明治中期に村田銃が村に入ってから禽獣が急激に減ってしまった」「農民にして狩猟を営まないものはなかった。」と、岩手県川井村郷土誌にある。これは、冷害のため農作物の不作が続く飢饉が頻発した、狩猟依存の強い東北地方の傾向とも考えられる。しかし、全国的に見ても、中部地方や九州でも狩猟は盛んであった記録があり、明治以降、オオカミ、カワウソ、トキなど多くの野生動物が絶滅ないしは絶滅に近い状態に立ち至ったことはそれを物語っている。

本格的な「サル」は大正時代でほとんど終わりを告げる。狩猟は、ゲームの色彩が濃くなり、それは最後に残された数少ないケモノたちのとり尽くしが、各地域で発生した。

一方、明治～大正に作成された5万分の1地形図を見ると荒廃地・禿げ山が多く出現しているところから、生息地の森も貧弱化し、急速に劣悪化していった。

このような状況下で、大正12年（1923）にニホンザルの全国的実態把握へむけて、長谷部言人によるアンケート調査が行われている。日本のサルは何類か、分布はどこかがこれによって初めて明らかにされた。その後、昭和28年（1953）には、林野庁岸田久吉が、昭和35年（1960）には日本モンキーセンターの竹下完が全国ニホンザルアンケート調査を実施している。

それらを概観すれば、ニホンザルは、明治期より大正期、昭和初期に向けて、分布を急速に縮小させ、昭和20年代後半がもっとも分布域を縮小させた時期となった。この背景には、明治年間よりひき継がれた大きな狩猟圧が第二次大戦直後まで続いたことがその大きな要因と推定される。

その後、高度成長期にはいり、狩猟はほとんど終息するのだが、反対に、生息地の森林の大

面積皆伐がはじまり、全国の深山の森林もほとんど伐採される事態にもなった。その後、自然保護や環境保全の聲が高まる中で林業の施行方針も転換していく。しかし、植林されたスギ、ヒノキの広大な人工林は多くの野生動物たちのすみかを奪い、いびつなものにしているという状況はほとんど変わっていない。

現在、各地で分布地域が拡大しているという報告が相次いでいるが、狩猟圧の減少、山間農地の高齢化、過疎化による離農の深更によって、農地の放棄、二次林の回復などによってニホンザルの個体数の増加、群れの増加が進んでいる。一方、ゴルフ場の乱開発、人工林の放置などによる生息地の攪乱もはじまり、タイワンザル、アカゲザルの集団の放棄による雑種化も発生し、形を変えた種の消滅の危機も高まっている。

ニホンザルを取り巻く事態はいっそう複雑化の様相を示しており、将来は、けっして楽観できない状況にある。

本研究は、科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)、課題番号11440249、研究代表者：茂原信生）の援助を受けて行った。

参考文献

- 愛知県土木砂防課（1992）第2章砂防のあゆみ。愛知県森林協会，愛知の治山：11-22。
愛知県（1980）第六章第1節山地の荒廃と治山。愛知県，愛知の林業史：984-991。
秋本吉郎校注（1958）風土記。岩波書店，日本古典文学大系2，
古川古松軒（1964）東遊雜記。大藤時彦編，平凡社，東洋文庫27，Pp.209。
比良野貞彦（1977）奥民図彙。農山漁村文化協会，日本農書全集。巻：196-239。
岩野泰三（1981）ニホンザルの分布と環境要因。(財)日本野生生物研究センター。第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（哺乳類）：12-37。
川村俊蔵（1976）日本のけものたち—ニホンザル。築地書館，追われる[けもの]たち：2-21。
岸田久吉（1953）代表的林棲哺乳動物ホンザル調査報告。農林省林野庁。鳥獣調査報告，第14号：1-92。
松山義雄（1979）続 狩りの語部。法政大学出版局：54-56。
三戸幸久（1989）農民の場合・猿害とその対応。日本モンキーセンター，モンキーNo.227・228：34-39。
三戸幸久判読本（1989）大正十二年（一九二三年）東北帝国大学医学部による全国ニホンザル生息状況のアンケート調査に対する各郡，支庁，島の回答資料（東・西日本編）。
三戸幸久（1992）東北地方北部のニホンザルの分布はなぜ少ないか。生物科学44(3)：141-158。
宮本常一（1990）絵巻物に見る日本庶民生活誌。中央公論社，中公新書605：83-85。
武藤鉄城（1969）秋田マタギ聞書。慶友社，常民文化叢書，Pp.222。
太田雄治（1979）消えゆく山人の記録—マタギ（全）。翠楊社，郷土の研究2，Pp.313。
下閉伊郡川井村役場（1962）川井村郷土誌（下）。下閉伊郡川井村，Pp.933。
菅江真澄（1984）菅江真澄遊覧記。内田武志・宮本常一訳，全5巻，平凡社，東洋文庫119。
竹下完（1964）野生ニホンザルの分布及びポピュレーション（上）。日本野猿愛護連盟。野猿19：6-13。
竹下完（1964）野生ニホンザルの分布及びポピュレーション（下）。日本野猿愛護連盟。野猿20・21：12-21。
滝沢村（1974）第六章 動物。滝沢村，滝沢村誌：4-43。
天笠敏文・伊藤仁子（1978）大正時代のニホンザルの分布。(財)日本野生生物研究センター，にほんざるNo4：96-106。
塚本学（1987）生類をめぐる政治。平凡社，平凡社選書80。
上原重男・小金沢正昭（1976）ニホンザルの分布の歴史的変遷。科学Vol.46(12)：737-744。
上野益三(1986)日本博物学史。平凡社，Pp.680。

表1. ニホンザル古生息情報 (奈良時代～明治時代)

年代順	生息年代	生息西暦	記載地名 (県都市町村山)	論文タイトル	出典文献	記述西暦
古墳	土師6C	501	北海道礼文郡礼文町 香深村香深井 A遺跡	香深井遺跡上・下	林-ツ文化の研究2・3	1976
奈良	和銅6	713	茨城県久慈郡会山		常陸国風土記	1270
奈良	和銅6	713	茨城県行方郡麻生地方		常陸国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県飯石郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県仁多郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県神門郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県大原郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県意宇郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県出雲郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県楳津郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県秋鹿郡		出雲国風土記	1270
奈良	和銅6	713	島根県島根郡		出雲国風土記	1270
鎌倉	鎌倉		神奈川県鎌倉市御成町12-18 千葉地東遺跡		神奈川県埋蔵文化財セン ター調査報告書10	1986
江戸	江戸期		愛知県三河國八名郡(南設楽郡)能登瀬村		三河國名所図会	1933
江戸	寛永13	1636	広島県佐伯郡宮島弥山山頂付近		絶滅した宮島のニホンザル	
江戸	享保元文	1716	愛知県丹羽郡		丹羽郡産物帳	1716
江戸	享保元文	1716	愛知県丹羽郡犬山		犬山産物帳	1716
江戸	享保元文	1716	愛知県(尾張國)春日井郡		春日井郡産物帳	1716
江戸	享保元	1716	広島県佐伯郡宮島弥山山頂付近	としなみ草	としなみ草	
江戸	享保10	1725	広島県佐伯郡宮島	芸藩通志	芸藩通志	
江戸	享保20	1735	岩手県零石代官所内		日本林政史盛岡藩	
江戸	安永	1772	愛知県春日井郡猿投山		張州雜誌	1780
江戸	安永	1772	愛知県春日井郡赤津山		張州雜誌	1780
江戸	天明3	1783	長野県東筑摩郡四賀 刈谷峠 (あだ坂)		菅江真澄遊覧記	1783
江戸	天明4	1784	秋田県雄勝郡羽後町馬音内の庄		菅江真澄遊覧記	1784
江戸	天明8	1788	秋田県山本郡二ツ井町七座山		東遊雜記	1788
江戸	天明8	1788	山形県東置賜郡(米沢市)綱木		東遊雜記	1788
江戸	天明8	1788	福島県岩瀬郡長沼～福島の山中		東遊雜記	1788
江戸	天明8	1788	静岡県磐田郡竜山村戸倉		江漢西遊日記 (日本庶民生活史料2)	1778
江戸	寛政5	1793	青森県下北郡佐井村福浦の北		菅江真澄遊覧記	1793
江戸	寛政5	1793	青森県下北郡脇野沢村滝山		菅江真澄遊覧記	1793
江戸	寛政8	1796	青森県中津軽郡西目屋村川原平暗門の滝		菅江真澄遊覧記	1796
江戸	寛政12	1800	東京都 (江戸) 奥多摩郡白丸村		川村半三家文書	1800
江戸	享和2	1802	秋田県山本郡二ツ井町小繋 高岩神社 秋田県北秋田郡鷹巣町七日市羽立明利又 烏帽子岳		菅江真澄遊覧記	1802
江戸	文化2	1805				1805
江戸	文化4	1807	秋田県鹿角郡十和田湖付近鉛山		菅江真澄遊覧記	1807
江戸	文化7	1810	埼玉県秩父郡高山村		新編武蔵國風土記 (大日本地誌大系)	1828
江戸	文化7	1810	埼玉県秩父郡古大滝村		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文化7	1810	埼玉県秩父郡新大滝村		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文化7	1810	埼玉県秩父郡浦山村		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文化7	1810	埼玉県秩父郡伊豆沢村		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文化7	1810	埼玉県秩父郡三峰山		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文化7	1810	東京都多摩郡白丸村		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文化7	1810	東京都多摩郡由井(領)原宿高尾山		新編武蔵國風土記	1828
江戸	文政11	1828	新潟県中魚沼郡津南町大赤沢		秋山記行	1828
江戸	文政11	1828	新潟県中魚沼郡津南町逆巻		秋山記行	1828
江戸	文政11	1828	長野県下水内郡小赤沢		秋山記行	1828
江戸	文政11	1828	長野県下水内郡和山		秋山記行	1828
江戸	文政11	1828	長野県下水内郡湯本		秋山記行	1828
江戸	天保3	1832	広島県佐伯郡宮島	敵島絵馬鑑	敵島絵図鑑	
江戸	天保6	1835	広島県佐伯郡宮島	敵島図絵	敵島図絵	1835
江戸	天保12	1841	山口県豊浦郡地吉村	防長風土注進案	(林勝治紹介)	1988
江戸	天保12	1841	山口県豊浦郡殿居村	防長風土注進案	(林勝治紹介)	1988
江戸	天保12	1841	山口県豊浦郡殿敷村 (現、豊田町)	防長風土注進案	(林勝治紹介)	1988
江戸	天保12	1841	山口県豊浦郡神田下村 (現 豊北町)	防長風土注進案	(林勝治紹介)	1988
江戸	天保12	1841	山口県大津郡井上村 (現 油谷町)	防長風土注進案	(林勝治紹介)	1988

ニホンザルの分布変遷について

年代順	生息年代	生息西暦	記載地名（県郡市町村山）	論文タイトル	出典文献	記述西暦
江戸	天保12	1841	山口県大津郡三隅村（現 三隅町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市通浦	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市青海村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市大日比浦村（青海島）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市瀬戸崎浦	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市白濁浦（現 宇先崎）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市俵山村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市洪木村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県長門市真木村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県美祢郡長田村（現 美東町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県美祢郡青景村（現 秋芳町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡小川村（現 田万川町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡惣郷村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡宇生賀村（現 阿武町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡生雲村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡地福村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡徳佐村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県阿武郡蔵目喜村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡串鱈河内村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡上村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡藤木村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡島地山畑村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡柚木村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡野谷村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡船路村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡堀村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡引谷村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡三谷村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡八坂村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡深谷村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡小古祖村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡伊賀地村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県佐波郡岸見村（現 徳地町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県吉敷郡上中郷（現 小郡町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県山口市仁保庄上郷	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県山口市七房村（現 宇宮野上）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県山口市上宇野令	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県新南陽市夏切村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県新南陽市峠村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県新南陽市馬神米光村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県新南陽市高瀬村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県徳山市須々万本郷村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県徳山市長徳村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県都濃郡栗山村（現 鹿野町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県熊毛郡曾根村（現 平野町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県柳井市伊保庄	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県玖珂郡宇佐村	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保12	1841	山口県玖珂郡大原村（現 錦町）	防長風土注進案	（林勝治紹介）	1988
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡吉田		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡加久藤		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡飯野		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡小林		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡綾		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡穆佐		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡高原		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡高城		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	宮崎県諸県郡山之口		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県曾於郡曾於郡		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県曾於郡財部		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県諸県郡松山		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県諸県郡志布志		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県姶良郡帖佐		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県桑原郡踊		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県桑原郡栗野		三国名勝図会	1843

年代順	生息年代	生息西暦	記載地名（県都市町村山）	論文タイトル	出典文献	記述西暦
江戸	天保14	1843	鹿児島県桑原郡吉松		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県大隅郡牛根		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県大隅郡垂水		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県肝属郡新城		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県大隅郡小根占		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県大隅郡大根占		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県肝属郡鹿屋		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県肝属郡高隈		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県大隅郡田代		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県大隅郡佐多		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県伊佐郡大口		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県伊佐郡鶴田		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県出水郡阿久根		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県出水郡野田		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県薩摩郡隈之城		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県薩摩郡樋脇		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県薩摩郡入来		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県薩摩郡東郷		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県日置郡串木野		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県日置郡市来		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県川辺郡坊宿		三国名勝図会	1843
江戸	天保14	1843	鹿児島県敷波郡(熊毛郡)屋久島		三国名勝図会	1843
江戸	末	1867	岩手県西磐井郡須川嶽（栗駒山）	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
江戸？	古来		青森県三戸郡田子町夏坂		青森県の動物たち	1985
江戸？	近？		東京都千代田区東神田 1丁目12番地 江戸遺跡		江戸都立一橋高校地点 発掘調査報告書	1985
江戸？			東京都（江戸）多摩郡日原村		武蔵名勝図会	
江戸？	古来		佐賀県藤津郡多良村多良嶽	大正12年西日本編	長谷部言人資料	1923
明治			群馬県佐波郡	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治＞		新潟県東蒲原郡 備考欄	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治			石川県鳳至郡	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治			長野県南佐久郡畑八村ハヶ岳	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治			静岡県田方郡天城御旗場	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治初	1868	青森県下北郡川内町湯野川		青森県の動物たち	1985
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡玉川の湯淵	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡仙岩峠～国見峠	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡五番森	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡モッコ岳	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡田沢湖朝日岳	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡田沢湖町 大影小影国有林	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡田沢湖町神代 新真崎野開拓集落裏山	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治	明治一大正	1868	秋田県仙北郡田沢湖町 玉川上流堀内沢	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究2	1979
明治		1868	徳島県名東郡上八万村 佐野河内村	大正12年西日本編	長谷部言人資料	1923
明治		1868	高知県安芸郡津呂村岩谷山	大正12年西日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治2	1869	岩手県上閉伊郡遠野通		南部風土記	1869
明治	明治2	1869	岩手県上閉伊郡大槌通		南部風土記	1869
明治	明治2	1869	岩手県上閉伊郡宮古通		南部風土記	1869
明治	明治2	1869	岩手県上閉伊郡野田通		南部風土記	1869
明治	明治中	1880	青森県下北郡内山林全般	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治中	1880	青森県下北郡田名部町恐山街道	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治13	1880	愛知県丹羽郡栗栖村 栗栖山&カンカケ		尾張名所図会	1880
明治	明治20	1887	青森県下北郡風間浦村蛇浦		青森県の動物たち	1985
明治	明治20	1887	青森県下北郡佐井村川目		青森県の動物たち	1985
明治	明治20	1887	広島県佐伯郡宮島	絶滅した宮島の ニホンザル	モンキーNO139/140	
明治	明治初	1890	岩手県九戸郡各所	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923

ニホンザルの分布変遷について

年代順	生息年代	生息西暦	記載地名（県都市町村山）	論文タイトル	出典文献	記述西暦
明治	明治26	1893	福井県足羽郡	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治30	1897	青森県上北郡八甲田・十和田湖（ 黄瀬川～焼山～雲井の滝間の山地）		青森県の動物たち	1985
明治	明治35	1902	京都府愛宕郡雲ヶ畑村	大正12年西日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治36	1903	山形県西置賜郡西根、豊川、豊原、 平野、西根、津川、小国本、南小国	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治末	1907	青森県下北郡脇野沢村蛸田		青森県の動物たち	1985
明治	明治末	1907	青森県下北郡脇野沢村二の渡沢		青森県の動物たち	1985
明治	明治末	1907	青森県下北郡脇野沢村口広沢		青森県の動物たち	1985
明治	明治末	1907	青森県上北郡十和田湖 中山半島		浅瀬石川郷土志	1976
明治	明治末	1907	静岡県富士郡富士山森林地帯	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治末	1907	静岡県富士郡上井出村の西方 甲駿国境山脈	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治末	1907	和歌山県伊都郡	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治41	1908	青森県下北郡脇野沢村武士泊海岸		脇野沢村文化財保護審議会 委員調査報告書 3	1992
明治	明治後	1910	青森県下北郡川内町	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923
明治	明治44	1911	青森県下北郡脇野沢村面木～青石海岸		脇野沢村文化財保護審議会 委員調査報告書 3	1992
明治	明治末	1911	秋田県仙北郡田沢湖外輪山の院内岳	消えゆく山人の 記録マタギ（全）	郷土の研究 2	1979
明治	明治一大正	1912	千葉県安房郡湊村内浦山林	大正12年東日本編	長谷部言人資料	1923